



二十五箇條

目錄

- 一 といふのたすなり
- 一 といふ二字のなり
- 一 虚實のなり
- 一 變化のなり
- 一 起定轉合のなり
- 一 發句切字有る
- 一 脇韻字有る

- 第三手亦葉之
- 四句目輕
- 存花の
- 花を搦る
- 菊の葉と葉す
- 二葉より波ら
- 花句時亦用
- 花句縁や
- 附句葉

- 趣向を定
- 意の句乃
- 切字を可傳
- 拾名の
- りし壽の松の
- 菊と鶴乃句の
- 智の多
- 名所と雜の句
- うふし

田舎歌

○俳諧のたより

ある人問曰くいふを何のたよりとす  
此や昔の俳諧乎詰とすいふは  
又問曰くいふのたよりとす何のたよりとす  
違聲あり憐れなるを子ありては乃  
實有と踏破たりと尋ねるは  
とつりてはとすといふは  
よけしのたよりとす  
身連なりは此のたよりとす

字の類

口傳一向宗の字あり  
聖跡心法 後麟と秘訣

○こころの二字の事

こころの二字は古来より書經あり字書  
として神を祀の音にたぬるしを史記の  
清鑑として此の字は定りたり竹書經  
の神をぬるるにきくね古と集より神の  
字と申ししをとりたれ此類を古實とて  
類ともすこころの字もあつて六

神の字も此類に神の二ありたれ  
他家にすこころの字も古人より書經  
より眼より去とも此とも名を別よとてし  
ゆるる言經の神の字の理をきくを  
他家にすこころの字も此類にすこころの字も志  
より神の字も神の字も神の字も神の字も

○虚實の事

虚の字は虚の字は虚の字は虚の字は虚  
の字は虚の字は虚の字は虚の字は虚

實の如の如く...  
情の如く情の如く...  
上の如く上の如く...  
章の如く章の如く...  
實の如く仁義禮智と云虚の如く虚の如く...  
人の如く人の如く...  
○變化の如く

又章の如く...  
實の如く上の如く...  
の如く上の如く...  
上の如く上の如く...  
思の如く上の如く...  
上の如く上の如く...  
上の如く上の如く...  
上の如く上の如く...  
上の如く上の如く...  
上の如く上の如く...

百句と百句の愛化すのきりて愛化  
をさくとも愛化するものゆへに目前の  
よき句は迷ひて前後の愛化を念する故  
あつたは愛化といふは新古をさくや  
人間の愛化は新古をさくといふも口  
舌の新古をさくといふの愛化は終つ  
て愛化をさくといふ料理の甘く淡く  
酸く辛くといふ能くよくすべしといふ  
ゆへに愛化は虚実の自在なりとあるゆへ

○起定幾言とす

起定上下取言を并一音とんゆへ  
起定虚実界よりいひて其意相しるは意  
相を愛句といふは一ゆへに待てお射し  
みまじきと縁よりいひて一ゆへに定  
まり定の字ありしを靖いよ一ゆへに  
ふらふたぬを愛句ハ陽あり細く陰あり  
三ハ一轉く天地より人をもすといふ人  
天地より働けし元志も天地より起る如し

ある類一 名やとも萬物一 名たり  
身よを流の字にんある類一 名たり 兼比  
志く山女祭川あり一 名の類にんある

○ 祭句は切字有る

祭句の切字との字を差別のふらり物にそ  
志やまらしめは志やと切字ありたる  
密と亭とに差別ありたる切字有る  
祭句ともなる類にんある祭句よりありす

桐のまらしめは志やと切字有る

此句はよき祭句とくは祭句とくは祭句とくは  
身よを流の字にんある類一 名たり 兼比  
志く山女祭川あり一 名の類にんある

○ 類一 名たり 兼比

初ん一の類にんある類一 名たり 兼比  
身よを流の字にんある類一 名たり 兼比  
志く山女祭川あり一 名の類にんある



の御心各愈きまうしとくましくしとるを其  
 不道よ一癖とあつて珠の夜とさや一  
 ちる不し句相親一縁は神なり句字で  
 玉糸のちやぢうしとくましく結を巻句の  
 雲柄富文のちまうぢやうす結一編乃  
 身振ゆし縁はなやうす 口侍能の  
こすぢ  
 巻句と火の傳うしとくましく縁は  
 乙らんと負てし巻句よ お御しつる草本  
 山川の一草二草の巻柄と加つて乃

案柄よりけりまうしとくましく結も珠の一草  
 といふ巻句よとくましく結

〇第三の巻句よとくましく結

第三の巻句よとくましく結一白  
 の巻句のやうな下のおまを  
 次の句へ及ぶるなやうに結とさう  
 へは巻句のちまうしとくましく結  
 一とくましく結と巻句の巻句の中  
 ともなうに結と巻句よ第三の巻句よ

Handwritten text in cursive script, likely a continuation of a letter or a personal note. The text is written vertically from right to left across the page.

○ 白句月鞋予

白句月鞋予... Handwritten text in cursive script, continuing the letter or note. The text is written vertically from right to left across the page.



都くゆ花をゆ雛のなぐらふまゝに  
叶にをり理とましくとぬぬ花の白  
は新まきとせむし思ふす一筆花苗  
なふりしきよきとして海一の浦の白  
まゝにその時程の記ありしけり  
そとく奇怪とあれし思ふす

○ 花の標し

世に花とふを標のしきりし人あり  
世に花とふを標のしきりし人あり

花解る如姫乃敷筆花ゆふ深む花  
のくまやゝあるもろぬれくの正花  
あましく花の貴殿の二字よきまゝ  
ぬらりしれらるるもくもぬれまゝ  
ゆに三白去花一花を喜ば筆とする  
あれは花より小標と附るも傳授あると初ん  
小中りさす或ハ標細の敷ふとあの花小ありさ  
る標あるハありさす志して附へるもあつた  
乃く人のとて此標をくゑる標但花を

橋よありす橋よありす方よわあ〜  
家比侍ま〜  
おのゝ

。おのゝ

日花の句より〜  
季も〜  
時〜  
趣〜  
有〜  
そ〜

数〜  
業〜  
〜  
〜

こ〜

た〜  
り〜  
時〜  
〜  
第句乃二〜



祭句よすり傳はたあき平のよせ八指合強の  
酒くすすふもて一句のささるるくくく  
あくくくくくくくくくくくくくくくくく  
此程をた理乃指合を知てみまれば  
言を穿鑿す地くすくくく

○ 祭句 像やうのり

祭句を屏風の画と思ふ也一己の句と  
ゆくくと同画は准へて之を畫し  
活き起つてあつてこれより中へ

ゆくくと祭を先くくくと傳はす  
あつて祭句とくくくくくくく  
閑て眼前に之を傳へんと思はして  
くくくと之をその推量するもくくく  
附くくくと量く附くくくと門他門のくく  
祭句を此よりくくくくくくく  
ててくくくくくくく

口傳連年の  
り

○ 附句 一のり

祭句よりくくくくくくく

望て望望の事一能く能く家人の況  
を望て望望の事一能く能く家人の況  
多岐に一望望の事一能く能く家人の況  
趣向より人を望望の事一能く能く家人の況  
趣向を定。傳家あり思へて工夫の事  
生るる望望の事一能く能く家人の況  
不るる望望の事一能く能く家人の況  
下り望望の事一能く能く家人の況  
翻るる望望の事一能く能く家人の況

望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況

口傳共法  
の事あり

。趣向を定。傳家あり  
望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況  
望望の事一能く能く家人の況







悪の句乃ち予を去式と見しす于故に  
嫁しと云林野序傾城の文字名目と云  
悪と云す只尚句此の悪の文字  
よりしす悪と云す此の悪の文字  
より悪と云す此の悪の文字  
凡難の危悪と云す此の悪の文字  
此の悪の文字と云す此の悪の文字  
此の悪の文字と云す此の悪の文字  
此の悪の文字と云す此の悪の文字  
此の悪の文字と云す此の悪の文字

○ 切字の口調 ありあり

切字は予塔抄のありありの  
重と云す唯量多し大由し去切字  
いふ切字は予の重と云す唯量多し  
去切字のありありの重と云す  
いふ切字は予の重と云す唯量多し  
切字は予の重と云す唯量多し

二字切

あゝあゝの重と云す

三字切

ふたの事よきくは候也候じふ

三段切

候し候まきし候出の候也とらけ

りし候まきし候とら候の候よ

候し候まきし候とら候の候よ

とら候八段年口と三段とらけ候まきし  
の候まきの候とら候とら候とら候とら候  
候とら候八段年口と三段とらけ候まきし

候し候まきし候とら候の候よ  
候し候まきし候とら候の候よ

候し候まきし候とら候の候よ

候し候まきし候とら候の候よ  
候し候まきし候とら候の候よ  
候し候まきし候とら候の候よ

候し候まきし候とら候の候よ

候し候まきし候とら候の候よ



旋あり篇物の法式を以てしるべき也

○ 幸等のまじり句のり

幸等のまじり句のりより續く 此等句  
の法式を以てしるべき也 幸句と分くと平句  
と此等句のまじり句の二つの中より曲節  
とありし句あり此句は曲より松の  
續くを幸より曲節の二つを以て幸一の  
よりし 幸句のりよりし 幸句のり

幸等のまじり句のり

幸等のまじり句のりよりし 幸句のり  
幸句のりよりし 幸句のり

幸等のまじり句のり

幸等のまじり句のりよりし 幸句のり  
幸句のりよりし 幸句のり  
の法式を以てしるべき也 幸句と分くと平句  
と此等句のまじり句の二つの中より曲節  
とありし句あり此句は曲より松の  
續くを幸より曲節の二つを以て幸一の  
よりし 幸句のりよりし 幸句のり



考はあゝ花の残花とよきりたりきき  
前句のたつたきき前句のききとくしり  
つらきよきりききとつらきよきり  
句のふとききとあきよきりきき  
流物比きとよきとあきよきり前句  
を筆とよき能相きのききとあき  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきり

葛西、根のふきききき

片元山、日と色とつら

きき前句のききよききとあき  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきりききとあきよきり  
あきよきりききとあきよきり

。音書の句乃き

あきのききとあきよきりきき



句おし三句の中よりいと難しきもの

青雲をちりし神のまはし

おしり三條のち哉

いれを桃にちりき小幡袋

最青雲のいと難しきもの

いと難しきもの

花前よのいと難しきもの

いと難しきもの

いと難しきもの

いと難しきもの

いと難しきもの

○各所、難の句

各所の各句を難し難の句

各所の各句を難し難の句

いと難しきもの

いと難しきもの

いと難しきもの

此中、各句の句、各句の句



うゑれ希あひりまう

と さんか 山まう

小桶 狭れ字 とも同

に おとこ かり 桶

洪 と小とおの字をあへず

大 に尾お おの字をあへず形

と は同よ下り用

と 字よ用と韓の時をあへず

と 声規の敷みこ下信此時を米の字  
んまう

え 中のえ 消 きう 杖 机

此時を は りふ古実まう

へ へ ま 是まハヒへ下通

榮 へん 是ま古実まう あ け 敷まう

縁 えん 此敷まう衣名の下よフへ口傳

ゆ ふ 郵敷まう 盥 タラ井器ノ時を  
るアナイ

ぬ クレナイ 又井正

住居 きの夕、スマヒ 山ノ夕、スマヒ

法師 ホフニ ホフニ ホウニ 古実まう 入声、ホフニ

雜

サツ

拾

此數丁令入声

ら

と

の數つと通ふらとの字なり

右老那清く新式有二十と線最

高家と名目也即ち後押字也

と而ふと未だて識しむる已

く那清石の待字此人最下

と等字也

不待元彌七甲戌六月日

芭蕉筆

地書

判

貞保承北既徐春王五月吉

尾武蹄城東

西邑粮奥藏

書肆

太田庄右衛門

蕉門野坡流琳譜書目録

京青町之條三ノ町

頼田心之希

板行

野翁追善

高津翁代集

洛 風之撰 四冊

枕の巻

武州扶父

百梅撰 一冊

門司観

豊前

程十撰 二冊

梅の巻

備後福山

素浅撰 一冊

教の舟

筑後

木而撰 一冊

竹の巻

釣月亭追善

豊前

岱原 百越撰 一冊

向日品

肥後

素朝撰 一冊

花より嫁

芭蕉翁辛酉十二

洛 梅撰 一冊

初陽巻

筑前

挺五撰 一冊

かたれ巻

風之子追善

洛 文下撰 一冊

つゆ子

同

免城撰 一冊

忍れ巻

筑前

未雷子追善 素朝撰 一冊

三日の巻

野翁追善

梅徒 風之撰 三冊

宍の巻

都外子追善

同赤間

里舟撰 二冊

十二題

浪花

梅從撰 五冊

紫の海

筑前 宇白撰 二冊

憲の春

日

浮風撰 二冊

顔の魚

小文子追善 江棧撰 一冊

蓬の鳥

備後福山 和吹撰 一冊

小の鳥

小文子追善 洛 江棧撰 一冊

空の松

備前中 如芥 貫千選 一冊

松の流

古桂撰 二冊

雨の夢

備後福山

整福撰 一冊

掃の松

春白集 和氣撰 一冊

身成記

正風指南 九十九卷 風之撰 一冊

秋の侍達

信中連 六推選 一冊

朱白集

芭蕉翁 石碑集 三冊

子かえ

江棧撰 一冊

芭蕉翁のそと

一冊

砂の月

和氣撰 一冊

けの茶

藝州廣嶋 風律撰 一冊

名の茶

豫州松山 斗坡撰 一冊

茶のそと

筑前福岡 器水撰 一冊

言のそと

筑前福岡 江棧撰 一冊

湖の茶

洛 諸九撰 一冊

茶のそと

筑前朝倉 市邊撰 一冊

十日

筑前朝倉 莊五撰 一冊

雪のそと

筑前福岡 杏康撰 二冊

新

日春吉 計圭撰 一冊

鏡のそと

筑前三原 金持撰 二冊

と

江棧正 洛文下撰 一冊

紙のそと

洛 風律撰 一冊

水

水容撰 一冊

秋のそと

筑前 似及 一冊

扇のそと

筑前府中 貫千撰 一冊

枯のそと

筑前其木 文離撰 一冊

珠光時雨

珠光時雨 一冊

曉のしら

五調撰 一冊

お乃落草

お乃落草 一冊

白帯

白帯 二冊

お乃ゆらぐ

お乃ゆらぐ 一冊

かゝり梅

かゝり梅 一冊

お乃たけ

お乃たけ 一冊

折躰

折躰 一冊

お乃あはれ

お乃あはれ 一冊

梅とすい

梅とすい 一冊

お乃の記

お乃の記 二冊

笠乃

笠乃 一冊

お乃の蝶

お乃の蝶 一冊

香の梅

香の梅 一冊

お乃の春

お乃の春

